



外川 善正 議員

録画配信はこちら

最近の業務運営について

Q 信頼と絆を取り戻す業務運営とは

A 一人ひとりの意識の向上と組織としての防止体制

本事業は、接種を希望される方が、機会を失うことなく接種していただけるよう利用件数により本事業の有益性を判断しているものではない。また、特別な移動手段を必要とされる方などを対象に民生委員さんのご協力をいただきながら送迎の支援を進めて

答 (町長) 送迎を一度利用された方のなかには接種後の体調の変化や副作用を心配され、次の回からは、ご家族や近所の方が付き添われる状況も見受けられた。

問 新型コロナワクチン接種時の移動支援について
答 移動支援を行った実績が令和3年度では26件で令和4年度では1件となっているが、75歳以上の高齢者の方だけでも250人弱おられ、3回の接種を考えると(延べ750人)と余りにも利用者が少なく、この移動サービスがほとんどに良かったら2回目も3回目も受けられると思うが、1件にまで留まることは行政としてどのように受け止めているか尋ねる。

新型コロナワクチン接種時の移動支援について

多発する業務ミスについて

問 ここ数年業務ミスの発生が目につく。その内容のほとんどが、同じチェック漏れや確認漏れなど人為的なものが多く見受けられる。業務の流れを各段階でどのように指導を行っているのか尋ねる。



ワクチン接種会場の公民館

いたが、ひとり暮らしの方や車やバイクなどの交通手段がない方に幅広く利用いただいている。

答 (副町長) ミスの原因としては、そのほとんどが人的に生じたヒューマンエラーによるもので、認知誤り、慣れ等による不注意、知識や経験の不足、不十分な連絡や報告、心身などの要因により起きていますと把握している。各職員自身が改めて意識して業務にあたること、ミス発生時には直ちに上司に報告すること、ミスが発生した状況等について所属内で共有し同じ誤りを発生させない。所属長をはじめ各管理者には業務ミスの起こった状況の確認と整理を行いその再発防止策の検討を所属内で行う。また、手順書やチェックシートの見直しなどを行う。町組織全体としての防止策は課長会議での情報共有のほか類似する事象等が起こりうる可能性のあるものを特に注意喚起や再点検を行うよう指導している。

問 行政への問い合わせや要望等について
答 以前口頭で問い合わせをお願いしたが、なか



答 (町長) 町に対する問い合わせや要望については各担当においてその内容を整理・共有し速やかに回答するようにしている。回答にいたるまでの期間については案件により様々であり、回答内容の検討に時間が必要であるため特に定めていないが、速やかに回答するよう努めている。なお、回答までに時間を要する場合には、回答の予定時期や検討状況の進捗を相手に伝えるよう徹底する。

なか返答がなかったことから再度文書で問い合わせを実施した。それにも関わらず1年近く経っても、回答がないことから、行政全体としてはどのような体制でもって業務の運営を推進されておられるのか尋ねる。



河村 善一 議員

録画配信はこちら

県道湖東愛知川線の歩道整備について

Q 歩行者の安全のために、歩道設置は必要と考えるが

A 早期の歩道設置が実現できるよう取り組む

問 県道及び町道の整備状況と歩道設置について
答 (建設・下水道課長) 町内を走る国道は、国道8号および307号で、その延長は6.7kmである。県道の延長は33.4kmである。町道の延長は約209kmで、その他道路については、農業道路が約61kmある。道路の維持管理主体は、国道8号が滋賀国道事務所、国道307号および県道が滋賀県で、町道ならびにその他の道路は、町および土地改良施設所有者等である。

問 現在、沓掛地先からの道幅が狭いにもかかわらず、大型のトラック・ダンプ・バスが通り、対向車は反対側に寄せて一時停止するか、広い場所をさがして待機し、対向車が通るのを待つしかない。そのため、歩行者にとっては大変危険な場所となっており、

問 令和2年度に2回、県と町からの説明があったが、令和3年度は何の動きもなく、説明もなかった。もっと積極的に地元足を運び、地元の役員、地権者に理解を得るよう取り組むべきかと

答 (教育長) 県道湖東愛知川線の沓掛地先の一部区間においては、道路幅が狭く、大型トラックなどの離合がスムーズに出来ない区間が見受けられる。さらに、小学生の通学路にもなっており、路肩にグリーンベルトを設置し、ドライバーに注意喚起を図っているが、歩行者にとって安全と言える状況ではない。交通量も多い路線であることから、地元自治会や町から県へ要望し、一部歩道の設置をしていただいた。歩行者の安全を確保するため、引き続き、早期の歩道設置に向けた要望を行っていく。

問 新愛知川の法面の木の伐採と草の除去について
答 (建設・下水道課長) 児童の安全安心を確保するため、地元自治会や隣接地権者のご協力やご支援が必要であり、早期の歩道設置が実現できるよう、今後も県として情報共有や連携を図り、取り組んでいく。



新幹線側の大木

①新愛知川は誰が管理責任者か。
②新愛知川の樹木と草の適正管理を行なって、風水害被害が起こらないようにしてもらいたい。

答 (建設・下水道課長) 児童の安全安心を確保するため、地元自治会や隣接地権者のご協力やご支援が必要であり、早期の歩道設置が実現できるよう、今後も県として情報共有や連携を図り、取り組んでいく。

答 (建設・下水道課長) ①新愛知川は一級河川で、滋賀県が所有者で、管理責任者である。②現在の新愛知川の状況は、市地先の県道湖東愛知川線の交差点から、宇曾川に向かう下流において、新幹線側の法面から雑木や雑草が繁茂し、流れを阻害するような箇所が多数見受けられる。このことから、8月5日に町から県湖東土木事務所へ、早急に伐採などの対応をするよう要望書を提出した。県湖東土木事務所では、現地確認を行ったうえで、順次川の流れに影響が大きいと判断された箇所を優先に伐採するとの回答があった。